

事業所名

横浜らんぼ

支援プログラム（参考様式）

作成日

2026年

1月

16日

法人（事業所）理念		<ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーションの推進 ・障害があっても豊かに暮らせる社会作り ・障害がある人もない人も、一緒に仕事や暮らしができる環境を整える 	
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> ・障害があっても出来るだけ自立して⇒個人としての人格や尊厳を認める、尊ぶ ・障害特性に基づいた支援⇒苦手なことは補い、得意なことをいかす ・個別化された支援計画⇒できることは自分で、一人ひとりにあわせた、年齢相応の活動を提供する 	
営業時間		・営業時間 平常：月曜日～金曜日 11：30～17：30 ・休業期間：月曜日～金曜日 9：30～15：30	送迎実施の有無 あり なし
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	利用者のADLに関する支援を行っている。支援目標の例として『・安心して食事をとる』『・定時にトイレ誘導し、オムツを交換する（自分のことは自分で行う）・トイレで排泄が出来る』など。それらの支援方針としては、『・おやつや昼食などの食事場面では、利用者の様子を観察しながら食べやすい環境を整え、提供する』『・不適切な行為に対して、適切な行動がとれるような手立てを検討する、具体的に環境を整える・トイレをスケジュールの中に設定する。・トイレの壁に排泄している流れをイラストで示して、排泄を促す（何をどの順番でどうするところなのか）。』など。	
	運動・感覚	利用者の年齢や発達に応じて公園遊びやウォーキングなどの体を動かす機会を設定したり、お子さんに応じて必要な感覚を作業や遊びを通して提供している。支援目標の例として『・支援者の働きかけに合わせて活動する。・公園の遊具で遊ぶ・スケジュールを提示し、時間の流れがわかる・手先を使ったアイロンビーズやひも通しなどの課題を行う』など。支援方針として『・過剰な指をなめる行為や、つばをつける行為等が見られた時は、他のやるべきことに促す・感覚プロファイルにおける関わりや場面を増やし、手や足などに刺激を入れていく活動を設定する』など。	
	認知・行動	自分で動ける（自立して）ことを目標に、一人ひとりにあったスケジュール媒体を検討し、それらを提示しながら支援している。支援目標の例として『・自立して課題を行う・スケジュールに沿って自分で活動する・望ましくない行動がパターン化しないように適切に行動する経験を積む』支援方針として『・本人に1日の過ごし（活動の流れ）をホワイトボードに文字カードで提示し、見通しをもって活動できる環境設定を行う・自由にできる時間と、他児との活動時間を明確にし、メリハリつけた日課にする・動機のある活動を設定し、意欲的に活動できるような過ごしを提供する・おやつがいない時には、いらぬものを皿に入れる等、イラストや文字カード等その場面に沿ったやりとりを視覚提示し、適切な方法を促していく。』など。	
	言語 コミュニケーション	活動中や選択場面において、支援者や周囲の人に要求を適切に伝えたり、助けを求めることが出来るなどそれぞれのお子さんのコミュニケーションスキルに応じた支援を行っている。支援目標の例として『・困った場面で「手伝ってください」、「わかりません」など助けを求めることができる・自分の好きな活動をカードから選択し、支援者にカードを渡す（伝える）』など。支援方針として『・本人の不安を適切に表現できるよう、職員と一緒にスケジュールを立てる・活動を選択できるような機会を休憩時間などで設定していく。・要求カードや感情表現のカードを常に提示しておき、それらの行動が見られた際にはそのカードを指差しし支援者と確認する』など。	
	人間関係 社会性	らんぼでの活動が社会性のあるもの（公共施設の利用、買い物など）に設定し、年齢に応じてそれらを経験できるよう、提供している。また一人でできるよう指示書などを使用して自立を促している。支援目標の例として『・年齢に応じたグループ活動を他児と一緒に楽しむ・喫茶や散歩など、支援者や他児と楽しく関われる機会を設定する・長期休みにおいてカラオケや外食など同年代の他児と一緒に参加する機会を設ける・休憩時間や自由時間の過ごし方の幅を広げる・休憩時間や自由時間の過ごし方の幅を広げる・長期休みの利用時に、お店でお弁当を選び、購入する・一人で自宅まで歩いて帰る』など。支援方針として『・1人で準備し買い物へいく流れを自立してできるように、スケジュールや指示書を作成し、付き添う・指示書を必要に応じて見直す・買って来たお弁当を電子レンジで温めて食べられるような流れの設定、指示書を提示する・食べ終わったら、自分でゴミを片付け、トレーを流しておく一連の片づけを行えるように指示書を提示する・帰宅場面でも指示書を使用し、それに沿って玄関で保護者とメールでやり取りを行ってから、支度をし、一人で帰宅するのを見守る』など。	
家族支援		・卒業後の生活や就労先などの相談及び情報提供を行う ・家庭生活での過ごしや学校生活での相談や情報共有を行う、保護者の要望に応じて家庭訪問や家庭支援を行う	移行支援 ・移動支援事業所の情報提供を行う ・高校卒業後の生活に向けて、必要であれば就労先もしくは作業所等に情報提供、連携をとりながら本人への支援の方向性を確認する
地域支援・地域連携		・卒業後の生活に向けての準備、情報提供を必要に応じて行う、また保護者と情報を共有する ・地域生活におけるサービス等保護者を対象とした事業所の見学や卒業後の生活を見据えた勉強会を開催している	職員の質の向上 ・自閉症の支援、てんかんなどの研修、現場での支援についてパートスタッフ全員参加の会議を定期的に行っている ・その他、避難訓練（火災や地震など）、感染症対策の訓練を行っている ・法人内の合同研修（年3回）では、他事業所のスタッフと意見交換を行っている

主な行事等

特に年間での季節行事を行っていることはないが、社会資源・公共交通機関の利用を利用した活動を提供している。春休み・夏休み・冬休みなどは地下鉄やバスでの移動、外食やカラオケを計画している。夏休みは施設内のウッドデッキでプール・水遊びを提供している。近隣の畑においてサツマイモやじゃがいも掘り、梨狩りを提供している。